

JAXA-STEPS公募説明会（9/5） 質問リスト

質問内容	回答
プログラム概要について	
公募要領はいつ公開されますか。	2025年度公募の公募要領は、2025年9月29日公開予定です。
公募は今後も同様の規模で継続的に行われますか。	毎年、同規模、同時期に、継続的に公募を実施していく計画です。（予算等の事情により計画が変更になる可能性もあります。）
課題スコープは毎年見直されますか。	課題スコープは毎年変更する予定です。
「基幹ロケット相乗り」も統合されているとのことですが、今後「基幹ロケット相乗り」もJAXA-STEPSが窓口となりますか。JAXA-STEPSのスコープに合わなければ利用することができないでしょうか。	JAXAが実施する基幹ロケットの相乗りについては、JAXA-STEPS事務局がコーディネートする実証機会の1つとして扱うこととなります。JAXA-STEPSでは打上げロケットを定めて公募することはありませんので、公募要領（研究開発公募・教育目的公募）に従ってご応募くださいますようお願いいたします。
実証コーディネートについて、民間事業者への委託や支援契約は想定されていますか。	現状はJAXAが主体で実施する計画ですが、将来的に民間事業者へ担っていただくための検討を並行して進めてゆく想定です。
募集区分について	
研究開発公募と教育目的公募の応募時期は異なりますか。	2025年度公募においては、研究開発公募と教育目的公募は同時に公募予定です。
教育目的公募は、打上げの余剰枠がなくなった場合、採択や打上げが0件になりますか。	余剰枠の見込みを想定して公募を実施するため、教育目的公募の募集をする年度においては若干数採択し、打上げを行います。
大学は研究開発公募と教育目的公募の両方に応募が可能ですが、どちらに応募すれば良いでしょうか。	研究開発公募と教育目的公募においては、体制（JAXAとの共同研究の必要性有無）と資金（費用提供の有無）が異なりますので、特徴を踏まえてご応募ください。また、公募要領に各公募の審査の観点を掲載予定ですので、そちらも参考にご検討ください。
大学が機器を開発をする場合、教育目的公募の枠組みで、課題スコープへの応募は可能でしょうか。	2025年度公募においては、研究開発公募は「衛星システム」のみとなります。来年度以降は、皆様からのご意見を踏まえて別途検討いたします。
研究開発公募について	
FSフェーズとFMフェーズに同時に応募することはできますか。	異なる提案内容であれば、同一提案者から二件以上ご応募いただけます。フェーズや提案者が異なっても、同一の提案内容の場合は受け付けられません。
研究開発公募についてFSフェーズからFMフェーズへのステップアップについては今後実施される可能性はありますか。あるいは別途FMフェーズへの新規応募となりますか。	FSフェーズを実施後にフェーズアップ審査を実施し、半数程度はFMフェーズへ移行できる仕組みを考えています。フェーズアップ審査を通過することができれば、新規にご応募いただく必要はありません。
研究開発期間の1年程度、2年程度の「程度」はどのぐらいの幅を想定していますか。	現時点では明確な期間は定めませんが、提案書の中で実現可能性のあるスケジュールをご提示いただき、その妥当性と実現性の観点で評価・選定する予定です。
研究開発対象はハードウェア開発が中心に読めますが、データ処理アルゴリズム等を担当することは可能ですか。	「部品・機器」だけでなく「ツール/手法」も対象としており、ハードウェア以外の提案も受け付けています。

質問内容	回答
課題スコープについて	
協調領域と競争領域の両方のスコープを組み合わせた提案は可能ですか。	原則として、どちらかを選択していただきます。一方、提案書内に選択した課題スコープ以外への波及効果の詳細や意図等を記載していただければそのような提案も可能です。
課題スコープにおけるAI/DXの関連技術として、機器の開発を含めても良いですか。	機器の開発は「1-②：小型化/モジュール化関連技術」「1-③：誘導/制御/データ処理関連技術」や「2-②：観測センサ技術およびミッション実証」「2-③：即位関連技術およびミッション実証」での提案を想定しています。AI/DXはツールや手法等の開発を想定していますが、新たなAI/DXの手法・ツール等を活用した機器開発の研究を「1-①：AI/DX/モデルベース開発を活用した協調領域関連の技術」や「2-①：AI/DXを活用した競争領域関連の技術」としてご提案いただくことも可能です。
課題スコープ「2-②：観測センサ技術およびミッション実証」において、科学観測ミッションも提案できますか。	「2-②：観測センサ技術およびミッション実証」は、データ利用やサービス等の将来的に事業化を行うミッションを想定していますが、科学観測ミッションにも活用可能な技術については応募が可能です。応募資料には研究開発/実証後の事業化等の展開も記載していただく予定です。
どの課題スコープ番号に応募するのが適切か、相談は可能ですか。	公平性の観点で公募開始までは対応可能です。公募開始後においても、適宜事務局から提案内容について確認させていただくことがあります
資金について	
予算規模内での開発が難しい場合、その他の資金と組み合わせて研究開発/実証を進めることはできますか。	JAXA-STEPSから提供する資金の予算規模を記載していますが、採択件数や提案内容によって多少増減する可能性があります。JAXA-STEPSから提供する資金で研究開発費が不足する場合は自己資金等をご活用いただくことを想定しています。
資金不足によって共同研究が打ち切られることはありますか。	審査段階において、開発計画及び資金計画を確認したうえで選定させていただきます。開発途中で資金が不足する場合は、事務局と協議の上、対応を決定いたします。
予算規模はJAXA-STEPSプログラムから支援いただける費用のみが記載されており、JAXA内を含め提案社側の研究費は含んでいないという理解で良いでしょうか。	ご認識のとおりです。JAXA-STEPSから提供する資金とJAXA側を含め提案者が自ら別途準備・獲得した資金を組合わせた研究開発を提案いただくことが可能です。 なお、JAXA-STEPSから提供する資金は、提案者間の役割分担および費用分担に応じて提案者間で配分を決めて提案いただければと思います。当該配分については、選定後、JAXA研究実施部門と企業・大学等との間の共同研究契約に反映されることを想定しています。

質問内容	回答
体制について	
応募時に共同研究契約を締結しておく必要がありますか。	事前に締結する必要はありません。JAXA-STEPSへ採択後、JAXAの研究実施部門と共同研究契約を締結していただきます。
応募時に共同研究契約相手方の参画について合意を取っておく必要がありますか。	合意を取ってからご応募をお願いします。応募時に提案書に役割分担や資金分担について記載していただく予定です。
JAXAと共同研究を締結する企業の条件として、日本の企業であることが必要でしょうか。海外の企業も共同研究が可能ですか。	日本国内の企業を想定しています。
進捗に応じて、応募時の実施体制を更新することは可能ですか。	関係者の同意を得た上で、共同研究内容を更新していただくことは可能です。
委託契約は可能ですか。	本研究開発はJAXAと共同研究契約を締結して実施されます。なお、研究開発を進めるうえで必要な製造請負などの委託契約を研究開発の中で行うことは可能です。
共同研究での成果物の権利はどうなりますか。	共同研究において共同で生じた知的財産は共同所有となり、持ち分はそれぞれの知的貢献の度合に応じて協議により定めます。詳細は説明資料P.21をご確認ください。
インタフェース条件について	
ホステッドペイロードサービス事業者が提供する衛星サイズの想定を教えてください。	種々のホステッドペイロードサービスを活用していく計画であり、現時点では具体的には決まっておりませんが、CubeSat～100kg級程度の衛星によるホステッドサービスが想定されます。今後、サービス提供事業者との対話を踏まえて決定していきます。
「部品・機器・ツール/手法」カテゴリの想定サイズを教えてください。100 kg級衛星での実証においては、複数機器の相乗りを想定しますか。	実証した技術の適用先の衛星規模は規定しませんが、本プログラムにおいて実証可能な物理的なサイズは、100kg級程度の衛星に搭載可能な規模までを想定しています。実証については、基本的には複数機器の相乗りでの実証を想定していますが、採択件数やペイロード側の打上げ条件等を考慮し、提案内容に応じ適切なホステッドペイロードサービスを調達する計画です。
「部品・機器・ツール/手法」及び「衛星システム」のカテゴリにおいて、インタフェース条件は公募時に公開されますか。	ホステッドペイロードサービス及び打上げ輸送サービス共に相乗りでの搭載も考えており、公募発出時点では詳細なインタフェース条件は定めず、応募者のご希望を踏まえて決定していく計画です。なお、応募いただいた後でインタフェース条件を調整させていただく場合もあります。
打上げ・運用について	
2025年度研究開発公募FMフェーズの打上げ実証時期はいつですか。	2028年度の打上げを想定しています。
2025年度FSフェーズで採択され、その後FMフェーズに移行する「衛星システム」または「部品・機器・ツール/手法」は、いつ打上げ予定ですか。	次年度のFMフェーズに採択された実証と同時期の打上げを想定しています。
打上げ後の運用はどのように行いますか。	「衛星システム」は提案者で運用を実施していただきます、「部品・機器」はホステッドペイロードサービス事業者が運用を行い、データを提供する計画です。